

### 3.地域科学技術クラスター連携施策群

#### (1) 目標

地域産業の活性化や我が国の科学技術力の強化のため、地域における科学技術振興の必要性が増している。このため、各地方公共団体が独自の施策を展開するほか、政府レベルにおいても、地域における科学技術の振興を図り、地域ごとに研究開発の核となる大学・公的研究機関等の知恵を活用したクラスター形成を支援するための施策が展開されている。これらの施策の連携を図り、施策の効果を最大限に発揮していくため、8府省17施策を対象として、「地域科学技術クラスター連携施策群」が設定された。

本連携施策群の役割は、様々な施策の有機的な連携を図り、その成果を実際に地域経済の活性化に最大限につなげていくことであり、具体的には次のとおり目標を設定して活動を実施した。

#### ○究極的目標

地域における革新技術・新産業創出を通じた地域経済の活性化を図ること

#### ○連携施策群の目標

- ①地域科学技術施策利用者の利便性の向上
- ②技術シーズから事業化に至るシームレスな支援体制の構築
- ③地域クラスター施策の成果分析に基づく効果的施策の検討
- ④地域クラスターの形成を阻害する規制の改善等
- ⑤各地域の事情に即した連携の促進

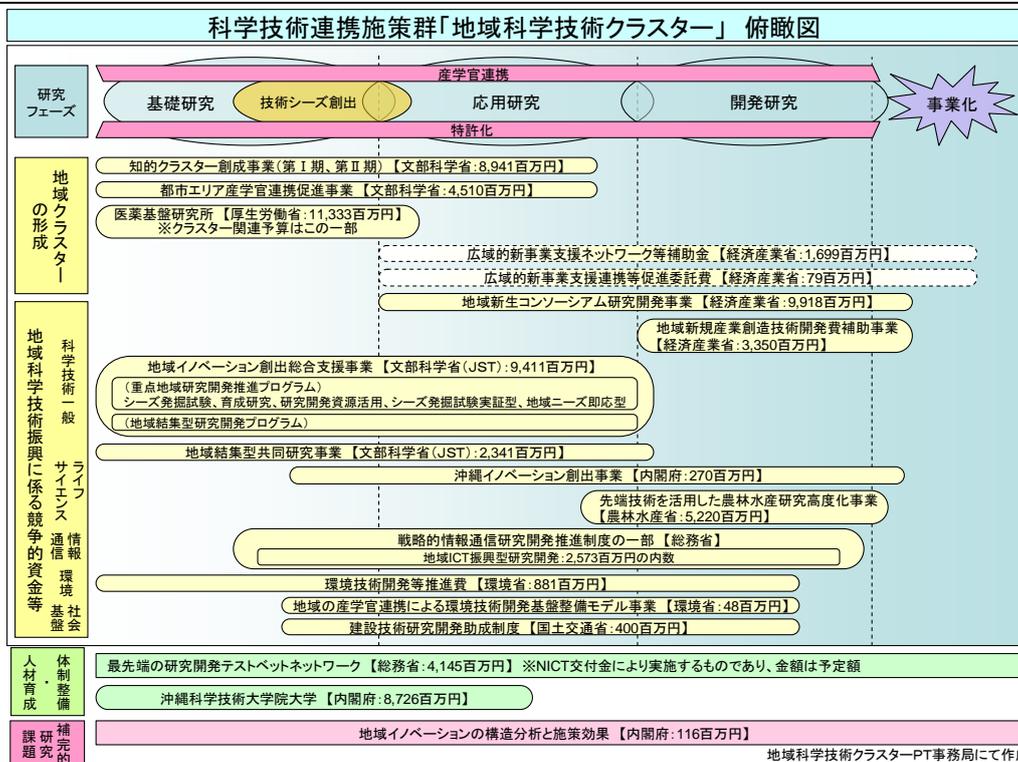


図-1 科学技術連携施策群「地域科学技術クラスター」俯瞰図（平成19年度施策）

## (2) 活動

### ① 府省間等の連携活動

地域レベルの連携を図ることが重要であることから、本府省レベルの連携にとどまらず、全国を10のブロックに分け、関係府省の地方支分部局や関係独立行政法人から構成される協議会を各ブロック毎に設置するなど、諸活動を実施している。

#### a) 関係府省会合の開催

本府省レベルで施策に関する情報交換、連携方策等の検討、科学技術振興調整費で行っている補完的課題についての検討等を行うため、平成17年度より、ワーキンググループ（WG）会合（平成19年度よりプロジェクトチーム（PT）会合）、タスクフォース（TF）会合を適宜開催し、地域科学技術振興に係る施策を実施している関係府省の連携を深めた。

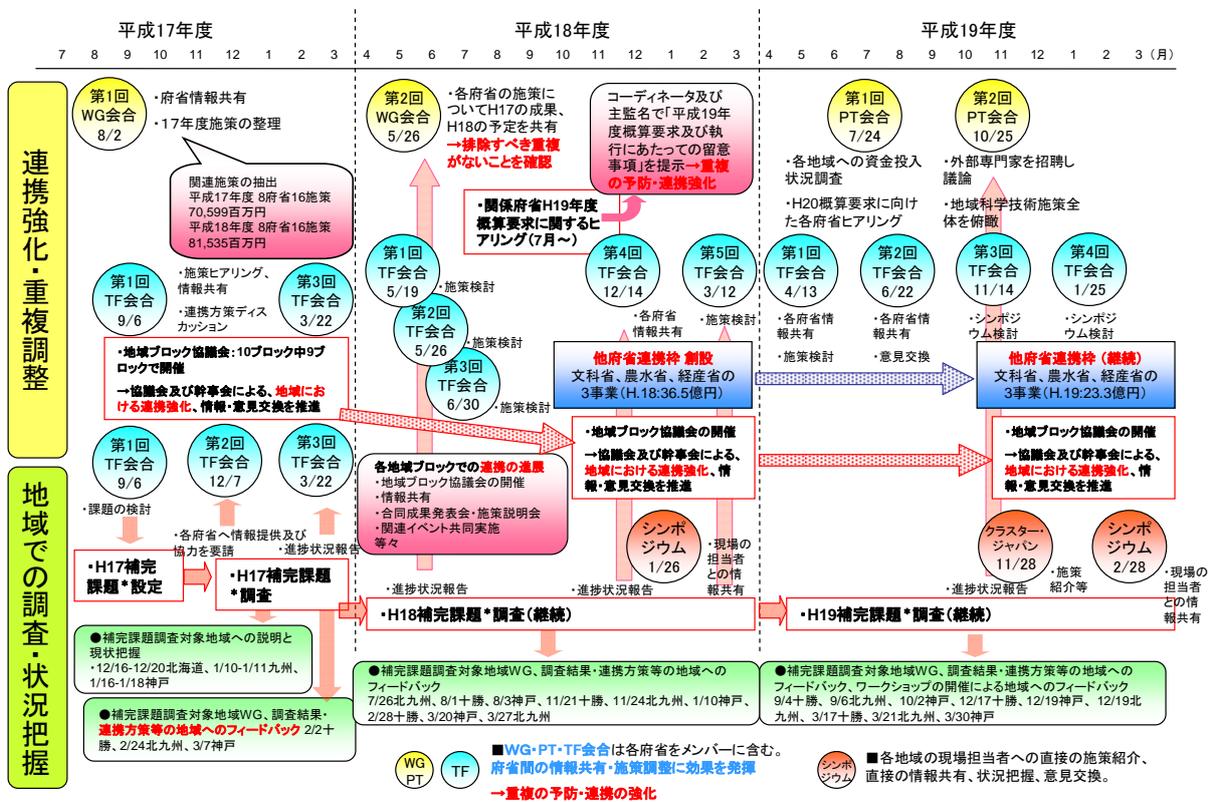


図-2 WG、PT、TF会合の開催実績（平成17年度～19年度）

#### b) 地域ブロック協議会の開催

全国10ブロックにおいて、関係府省の出先機関等の責任者・担当者からなる地域ブロック協議会・幹事会を総じて年1～2回程度開催し、各地域ブロックでの連携の進展状況のレビュー及び次年度以降の連携強化等について情報・意見交換等を実施した。中には、協議会を年3回、幹事会を年10回開催するなど非常に活発な活動を展開する地域ブロックもあった。また、連携施策群コーディネータ及び他の担当者も地

域ブロックの現状を把握するために一部の協議会に出席し、議論に参加した。

## ② 補完的課題の成果概要

連携のさらなる促進を図るため、科学技術振興調整費を活用し、効果的な地域科学技術クラスターの形成に係る調査研究を実施した。地域におけるクラスター関係施策の現状と課題については、クラスター形成に取り組む3地域を対象に調査分析を行った。それぞれの地域において、研究開発の進展、ネットワークの形成、研究成果の事業化等の成果が現れているが、更なる発展に向けた課題の洗い出しを中心に分析を行った。

### a) 課題の概要

採択課題名：地域イノベーションの構造分析と施策効果

研究代表者：石川 健 (株)三菱総合研究所産業・市場戦略研究本部事業開発グループ・グループ長・主任研究員

参画機関：(株)三菱総研、(財)全日本地域研究交流協会、東京大学、(株)東大総研

内容：地域の視点に立脚した地域科学技術クラスターを形成するに当たり、

- ・ サブテーマ1：地域におけるクラスター関係施策の現状と課題
- ・ サブテーマ2：地域イノベーションの波及構造分析
- ・ サブテーマ3：地域クラスターのネットワーク構造分析

を行い、これらの分析結果に基づき、効果的な関係府省及び地方自治体の連携を促すためのスキームを提示し、政策提言を行った。

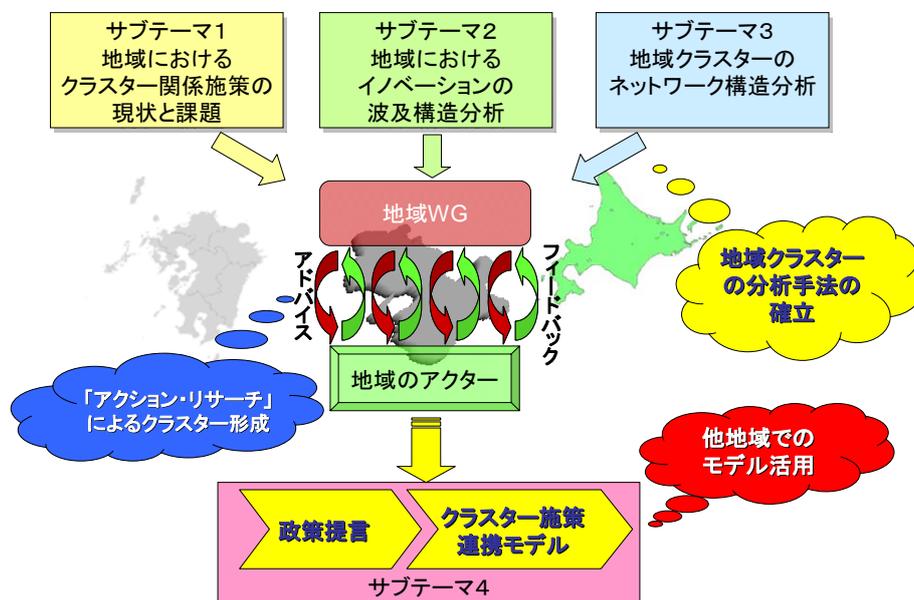


図-3 補完的研究「地域イノベーションの構造分析と施策効果」の概要

### b) 成果の概要

サブテーマ1：地域におけるクラスター関係施策の現状と課題

十勝地域（アグリ・食品バイオ）、神戸地域（メディカルバイオ）、北九州地域（半導体）における施策連携の状況とクラスターの発展に及ぼす影響、その課題について

分析した。各地域の分析結果は以下の通り。

- ・十勝地域では、農業者と食品業者の事業スタイル（量、品種、販売方法）がマッチしにくい。両者を含めた地域のビジョンが確立していない。また、地域内の人材が限られている。

- ・神戸地域では、基礎研究機関が立地したが、臨床研究の橋渡し研究が不足。また、先端医療を実現するための費用負担の仕組みが確立していない。

- ・北九州地域では、半導体設計の研究、開発機能が進出したが、既存産業集積との連携が不十分。各種コーディネータが活動しているが、相互連携、役割期待が不明確。

### サブテーマ2：地域におけるイノベーションの波及構造分析

波及構造分析のための枠組みを提示するとともに、3つの地域において試行的に事例研究を実施した。事例研究の結果、得られた知見は以下の通り。

- ・開発段階は域内、マーケティング段階は域外との連携が多い。
- ・異分野間連携は域内での連携が有利である。
- ・連携能力が高い主体はハードルが高くても連携できる。
- ・政策はイノベーションプロセスの所要時間を縮める効果を持つ。

さらに、人的ネットワークの機能、ネットワークで重要な役割を果たすコーディネータの機能についても分析を行い、地域クラスターを形成するためのイノベーションを起こすためにはコーディネータ間の連携が重要であることを指摘した。

### サブテーマ3：地域クラスターのネットワーク分析

ネットワーク理論を応用し、北海道、近畿、北部九州の地域クラスターを含む全国18地域についてネットワークに着目した分析を実施し、以下を明らかにした。

- ・ネットワーク構造は地域内企業数の影響を強く受け、概して企業数が大きい地域で特性が良好である。小さい地域では分散が大きく、施策効果の差異が大きい。
- ・ネットワークの密度は長野・沖縄で特に高く、久留米・札幌バイオクラスターでは低い。モジュール性に関しては、長野・浜松・沖縄がモジュール間の垣根が小さい。
- ・ネットワークの遠距離特性はほぼ企業数で決まる。これは多くの企業が集積している地域においては多くのハブ企業が存在し、結果として平均パス長が小さくなるためであった。
- ・浜松・長野はその規模に比して、ネットワークの近距離特性が特に優れている。それに対し、青森・京都は近距離特性で劣る。

### サブテーマ4：政策提言

サブテーマ1. から3. までの分析の結果、他地域の先進事例の検討結果等を踏まえて、以下を内容とする政策提案を行った。内容の概略は以下の通り。

1. 地域マネジメントの充実のための措置

- ・ 地域版技術戦略マップの策定
- ・ 地域マネジメントのための中核的機関の確立
- ・ 中核的機関の独自財源の確保のための措置
- 2. イノベーション促進のための特別地域の設置
  - ・ 複数府省による重点支援体制の構築
  - ・ 中央政府の検討につなげるアンテナ機能の設置
- 3. 地域イノベーションのための全国的な基盤の整備
  - ・ コーディネータの連携、能力向上のための取組
  - ・ 各地域のクラスターを応援する企業チームの結成
  - ・ 全国から必要な人材を調達する仕組みの構築
  - ・ 地域リーダー人材の育成塾

### (3) 成果と研究目標の達成状況の評価

地域における革新技術・新産業創出を通じた地域経済の活性化を図るべく、5つの目標を設定して活動した成果を以下に示す。

#### ① 地域科学技術施策利用者の利便性の向上

##### a) 地域科学技術ポータルサイトの整備

地域の企業等関係者等、地域科学技術施策のユーザーが、的確にかつワンストップで国や地方公共団体等の実施している地域科学技術振興施策に係る情報を取得することが可能となる地域科学技術施策全体のポータルサイトを構築した。(H18.3月末運用開始)



図-4 地域科学技術ポータルサイトのトップページ

公募期間の違い等により時期的に変動するが、本ポータルサイトにおいては、検索

可能な研究支援策、研究支援施設はともに約600件が掲載されており、また、各施策で採択された研究テーマは約5,000件が掲載され、技術的課題を抱える企業等が共同研究の相手先を探したり、研究機関等の研究者や技術者が施策への応募を検討する際に参考にしたりすることが可能となっている。さらに、地域科学技術関連ニュースでは、各地域、各分野で開催される地域科学技術関連のセミナーやシンポジウムの情報等が掲載され、地域振興に取り組む産学官の担当者や地域住民の方々への情報提供の場としての利用が可能となっている。

地域科学技術ポータルサイト開設から2年が経過した平成20年3月現在、月平均アクセス数及び月平均ページビューはいずれも増加傾向にあり、平成19年度平均では、平成18年度平均に比べ、アクセス数では4.8倍、ページビューでは2.3倍に増加するなど、着実に浸透してきている。この要因としては、平成19年4月に内閣府科学技術政策HPがリニューアルされ、地域科学技術ポータルサイトのバナーが配置されたこと、及び最近の地域振興への期待の高まりを反映して、地域科学技術施策へのニーズが増加していることなどが挙げられる。

これらの成果により、地域科学技術施策利用者の利便性が向上し、地域における情報の共有・活用が進むとともに、研究成果の利活用が推進されていることが伺える。

- ・ 地域科学技術ポータルサイトURL ; <http://www.chiiki.go.jp/>
- ・ データベース掲載件数 (H20.3.24現在) ;
 

研究支援策	621件
研究支援施設	579件
採択された研究テーマ	5,034件
地域科学技術関連ニュース	642件
- ・ 利用状況実績 (H20.3.24現在) ;
 

	(平成18年度)	(平成19年度)
月平均アクセス数	約900件	約4,000件
月平均ページビュー	約6,200頁	約14,000頁

#### b) シンポジウムの開催

各府省が取り組む様々な地域科学技術振興施策の有機的な連携を図り、その成果を実際に地域経済の活性化に最大限につなげていくという連携施策群の取組を紹介するとともに、地域にイノベーション・システムを構築して地域クラスターの形成を図るための話題提供や議論を行うことを目的として、シンポジウムを開催した。

- ・ 地域クラスターフォーラム～地域で光る、世界に輝く～ (H19.1.26開催)

地域のイニシアティブの下、府省連携により地域クラスターの形成を推進するため、また各府省及び地域における取組意識の情勢を図ることを目的に開催した。

- ・ クラスタージャパン2007 (文部科学省、経済産業省と共催) (H19.11.28開催)

国際競争力の強化と地域経済の活性化のため、クラスター形成を促進する方策について、成功例を踏まえながら議論した。

- ・ 地域クラスターフォーラム～地域発イノベーションと産業振興～ (H20.2.28開催)

地域のイニシアティブの下、府省連携により地域クラスターの形成を推進するため、